

支 援

町田市教育委員会

指導課長 小池 慎一郎

2011年度 学校支援ボランティア感謝状贈呈式

2月20日(月)、町田市民フォーラムにおいて、2011年度の感謝状贈呈式が行われました。表彰された方々は、7団体と個人が28名でした。その中には、学校支援センター事業が始まる前からボランティアとして学校を支えてくださった方、保護者として学校の教育活動を支えてくださった方がいます。中には、大学生となってから4年間、母校の小学校で学習支援ボランティアとして活動してくださった学生もいます。



当日は寒い中にも晴れ間が広がり、表彰者をはじめ、岡田教育委員長、教育委員会の方々、学校長、学校関係者、ボランティアコーディネーターなど、総勢134名の参加をいただきました。

贈呈式は、長年にわたり学校支援ボランティアとしてご活動いただいた方への感謝を表すとともに、学校支援センター事業を市民の皆様にご存知いただくことや、ボランティアコーディネーター同士の地区を越えた実践事例の交換を目的としています。また、東京学芸大学教授の松田 恵示先生より「つながりをコーディネートするために」と題して記念講演をいただきました。

式後のアンケートには、次のようなものがありました。

【よかったこと】

- ・感謝状を受け取る方々の表情が大変生き生きとしています。やりがいのある活動であると実感しています。
- ・それぞれの地域の特色を生かした取組を考えてくださっていることをありがたいと思いました。この支援のおかげで充実した授業内容になり、子どもたちが学校以外の勉強にかかわるとても良いです。
- ・講演では社会性についてとてもよくわかりました。地域の方にかかわっていただくことによって、子どもたちがより成長していけるよう連携を効率よく行い働きかけていきたいです。

【改善してほしいこと】

- ・進行がギクシャクしていたので、もっとスムーズな進行になるようにしてほしい。
- ・表彰者が主役なのだから、もっと時間をかけて一人ずつ渡すようにしてほしい。
- ・空席が目立った。ボランティアコーディネーターにはとても参考になる式なので、さらに多くのVCが参加できるような手立てを講じてほしい。

贈呈式はこれからも続けていきます。「表彰理由を説明し、一人ずつに感謝状を授与する」「代表者より挨拶をいただく」等、表彰に重点をおいた式にするかどうか、来年度に向けて考えていきたいと思っています。その他、運営において解決できる点は、しっかり対応したいと思います。

学校を支援していくということは、将来の地域の担い手を育てていくことです。学校でもない、家族でもない地域の大人の方々による学校支援、子どもとのかかわりを来年度もさらに充実させていきたいと思っています。

本町田小学校 世界の料理(アメリカ・フィリピン・ガーナ)を味見して国際理解(2/23)

小学校の家庭科で、世界の料理を体験するという単元があります。一般的には外国の料理を作って食べるという内容が多いですが、本町田小学校では外国の方に料理を作っていただき、食べることを中心に授業を組み立てました。それだけに本格的な味で、アメリカの「ホワイトチリ」、フィリピンの「やしのジュース」「ココナツミルクを使ったフルーツサラダ」、ガーナの「フフ（ヤム芋を粉にして餅状に練ったもの）のピーナツソース添え」は、香りからしてその国を感じさせるものばかりでした。このような理解の仕方も面白いと思いました。

ゲストティーチャーは、VCとスクールボード地域支援理事の方が探してきたそうです。このような授業が増えてきて、大学の留学生や国際交流協会との連携が強まっています。



小山中央小学校 小鳥の巣箱作りを特別支援学級で開催(2/24)

小山中央小学校は市内で最も新しい小学校です。校庭の南側には広大な保存緑地があり、開校から2年間、地域ボランティアと教職員で組織した「雑木林委員会」を中心に、少しずつ整備を進めてきました。

そこに、小鳥の巣箱を取り付けたいのでゲストティーチャーをという照会を受けて、つくし野小学校ピオトープ・プロジェクトで長年巣箱を作り、校地内や参加者の自宅に取り付け、その巣箱でシジュウカラが毎年のように子育てしているという、巣箱作りの経験のある方に指導をお願いしました。

まず、キジバトやシジュウカラ、メジロやスズメの巣を見せ、小鳥の巣はどういうものか実感させます。キジバトの巣を、子どもたちがそーっと手渡す姿に感動しました。つぎは、シジュウカラのえさになるピーナツリースを作りました。ピーナツの両端をはさみかペンチで切り、ハンガーに刺して作ります。

いよいよ、巣箱作りです。あらかじめカットしておいていただいた板に、子どもたちができる作業をボランティアの方と一緒にしました。ねじでとめる、出入り口の穴を開ける、紐を通すなどです。予定されていた12:00には、全員の巣箱が完成しました。20分休みを挟んで4時間かかりましたが、担任からは「よく一つのことに集中してできたことに驚いています」と感想をいただきました。

その後、一緒に給食をいただいて終了です。ゲストティーチャーは、「子どもがすぐ反応してくれてとても楽しかった」とおっしゃっていました。作った巣箱でシジュウカラが子育てしてくれるのが今から楽しみです。



町田第一小学校 英語授業でのボランティアの活動(2/27)

小学校における英語授業で、ALT が来ない時にはどのように授業を行っているのか知りたくて、町田第一小学校に参観に行きました。年間 35 時間の英語授業のうち、ALT が来るのは 24 時間です。あとの 11 時間は担任が行うことになっており、この数年間、小学校では教員の研修をかなりやってきましたが、英語を教えるのが苦手とと思っている教員もいるのではないのでしょうか。そこで、英語に堪能なボランティアの方に授業に入ってもらって担任と T.T. (チームティーチング) で指導している学校がかなりあると思います。

ボランティアの方は学区近くにお住まいで、英語の指導資格をお持ちです。5 年と 6 年の英語の授業を担当と一緒にを行っています。教材は、自作のカード、資格を取得するときに使ったもの、ALT の授業で使用しているものでした。

スピーチの段階から文字を意識化させようという意図で、小グループに分かれ音楽に合わせて文字の形を表現できるようにダンスを工夫していました。この様な授業が増える中、地域にお住まいの英語が話せるだけでなく教えられる方を探しておくことも必要かと思いました。



南第三小学校で馬頭琴の演奏会が開催される(2/28)

2 年生の国語の教材に「スーホの白い馬」があります。そこに登場する「馬頭琴」を子どもたちに聞かせたいということで、演奏者を探し授業に結び付けました。1 年生も来年度の学習のために、2 年生と一緒に体育館で演奏を聞きました。

日本人の演奏者は、モンゴルの伝統的な衣装を身につけ馬頭琴を持って登場してくださいました。次々と演奏される曲を、子どもたちはうっとり聴いていました。演奏後、楽器に触らせてくださったり、先生に演奏させたりしてくださいました。

子どもたちの感想に「眠くなっちゃった」とありました。牛や羊を落ち着かせうっとりさせる効果が馬頭琴やモンゴルの歌い方の「ホーミー」にはあるのではないかと思います。

市内のいくつかの小学校で、馬頭琴の演奏会が行われています。未開催の学校でも実施は可能ですので、来年度、計画されてみてはいかがでしょうか。



人工透析者の講話を通して人権について考える授業 鶴川第二中学校 2年生(3/1)

鶴川第二中学校で「大和市腎友会」の方を講師に迎え、人権学習を始めて4年目になります。地域の人に人工透析者のことを知ってほしいという大和市腎友会の方と校長先生が出会い、守られるだけの中学生ではなく手助けをする中学生になってほしいという校長先生の願いが合致してスタートした取組です。

人工透析とは何かを知るために、まず、町田市で編集した道徳の副読本にある透析患者の文も資料に使用して学習しました。そして、「大和市腎友会」から講師5名、ボランティア3名をお招きし、3時間目に人工透析について体験をもとに講話をしていただきました。生徒も真剣に聞いたり質問したりしていました。

質問の中にあつた「現在の楽しみは何ですか」に対して、「大和市腎友会で年に2回講演会を開催したり、透析者の相談にのったりすることにより、人と関わる、人の役に立っているという自覚が生きている楽しみです」と答えていました。

また、東日本大震災のとき、透析者は生命（生存権）の危機にさらされていました。そんな時、障がいがある人に何かできることはないか考えてほしいと言われていました。人と人が関わり、知ることにより手助けできる人間になるのだと思います。高齢者や障がいがある人、人工透析者などをはじめ様々な人々と触れ合うことで、人権課題に対する理解をより一層深め、豊かな人権感覚をはぐくむことが出来るのだと思いました。



小山ヶ丘小学校で第1地区校長会とVCの2回目の懇談会が開催される(3/13)

年度末でしたが、第1地区校長会とVCの2回目の懇談会が小山ヶ丘小学校で行われました。第1地区校長会が取り組んできた研究・実践の発表と、VCの感想や情報交換を行いました。

今年度、第1地区と第2地区の二つの地区で校長会とVCの懇談会が行われました。両方とも校長会の呼びかけで成立した会合です。新しい試みでしたが、VCからは学校に来ていただきたい人材の情報交換ができた、校長先生のお考えがよくわかったりなどと好評でした。ありがとうございました。

東京都主催研修会 水道橋研修センターに参加しました(3/7)

東京都主催の、放課後子供教室と学校支援ボランティア事業担当者対象の研修会に行ってきました。講師は先日、町田市学校支援ボランティア感謝状贈呈式で講演を行っていただいた東京学芸大学の松田 恵示教授で、テーマは「学校、家庭、地域の連携強化による学校支援、放課後活動の今後の取組について考える」というものでした。

うまくいっている事例に共通している点として、

- ① 参加者が満足していて、活動がどんどん広がっている。
 - ② 手作りや物に触れるクラフトマンシップのすごみが子どもの感動をよぶ。
 - ③ 活動の連続性を確保し、時間の経過を共有することで「きずな」が生じ、好循環を生む。
- をあげておられました。

また、それぞれが混じり合わないで自立し、連携する緊張感が大切ですとも言われていました。近いうちに町田を再訪してくださいとお願いしました。

※2012年度ボランティアコーディネーター説明会を、4月11日(水)10:00より、教育センターで予定しています。